

心をよつめる

その1

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように……。



浄土真宗本願寺派 徳念寺 住職
豊田 真証(とよだしんしょう)さん

『毎月19日の14:00より寺小屋をしております。どなたでも、どうぞお越し下さい。』



徳念寺
北九州市門司区夙師4丁目3-25
TEL 093-321-4391

願いにつつまれて

床屋さんに出かけて行った。お世話になって三十八年になる。ご夫婦の掛け合いが絶妙。ご主人は七十歳前。お母さんから店を受け継いだ。奥さんとお見合い結婚。お見合いの席にひと抱えもある真つ赤なバラの花束を差し出し、いきなり「結婚してください」とプロポーズした情熱家だ。奥さんが大好きなこのご主人。お母さんから山岳登山はやめておくれと懇願され、戸ノ上山に穴蔵を見つけ、お酒とラジオを持って関門海峡を往来する船を眺めながらお休みを満喫するとか。その場所は教えてくれない。おどけた冗句(ジョーク)が好きで時折その被害を受けることがある。剃刀(かみそり)を顔にあてて面白い写真やら、話を次々と繰り出してくる。危ないこと極まりない。床屋さんだけ髪が少

し淋しい。まだまだかけないことが、いっぱいある楽しい床屋さんなのです。この床屋さん、鏡の前に私を座らせ首にエプロンを巻きながら「さとり」って何、と聞かれるのです。この主人から出るはずのない言葉を聞いてびっくり。

「さとり」って、毎日生活している場所、この迷いの世界で真理に気が付き、私が真理にめざめることなのです。たとえば、私たちは分別(ぶんべつ)をもつて日々を過ごしています。分別の「分」とは？「別」とは？漢字の成り立ちを解釈分析する「解字」があります。

分は、八と刀から出来ています。本来は一だったけれども、刀で一を二つ

に割って一が二つに分かれ八になったのです。

別は、骨と肉をり(刃物)で削ぎ落すという漢字の成り立ちなのです。何年前か前、お父さんを亡くされ、お経を頂いて、火葬場に皆で送られたとか。火葬の点火の際とびらを閉じ「このボタン押してください」と係りの人に言われたでしょう。デパートでエレベーターに乗って、目的の階に行く同じ感覚でボタン押せましたか。涙(なみだ)こぼしながら火葬のボタン押されたのでしょうか。

私の場合は「あついで。母ちゃん。あついで。」大粒の涙(なみだ)が噴き出したことを思い出します。

分別(ぶんべつ)することは、本来は悲しいこと。辛いことです。それでも、何を想うことなく毎日を過ごしています。

私は生きている。あなたは死んだ。私は若い。あなたは年老いている。私は豊かだ。あなたは貧しい。私は美しい。あなたは醜い。延々と終わらない。地位・名誉・お金・着る物・食べ物・住い・お勉強。み教えにお出遇いしない限り悲しみの原因、分別は続いて続く。痛いとも感ずることなく続く。

仏さまの「さとり」は平等・無分別智。本来、分別する者を分別することができない無分別智が私に働きかけ、私を包んで下さる。必ずすべてのものをつつんでくださる。澄みきった夜空のように。ほら。